世界文化遺産・国宝

姫路城

姫路城は、日本で現存する最大の城郭建築であり、巧妙な縄張りや多様な石垣、連立する大天守・小天守、渡櫓、門、狭間、瓦などの全てに日本の城の魅力が凝縮されています。
平成27年3月27日には、大天守保存修理を終え、グランドオープンを迎えました。
姫路城の特徴である白漆喰総塗籠の輝くように真っ白な姿をどうぞご覧ください。

姫路城の主な出来事

1333年(元弘3年)	赤松則村(円心)、姫山に砦を築く。
1346年(貞和2年)	赤松貞範、姫山に本格的な城を築く。
1577年(天正5年)	羽柴秀吉、播磨侵攻。
1580年(天正8年)	黒田官兵衛孝高、城を秀吉に献上。
1581年(天正9年)	秀吉、3重天守の姫路城を築く。
1600年(慶長5年)	池田輝政が城主に。
1601年(慶長6年)	輝政、姫路城大改築を始める。
1609年(慶長14年)	5重7階の連立式天守完成。
1617年(元和3年)	本多忠政、伊勢国桑名から入封。
1618年(元和4年)	忠政、嫡子忠刻とその室 千姫(徳川秀忠長女)のために西の丸を造営。
1749年(寛延2年)	酒井忠恭、上野国前橋から入封。
1868年(明治元年)	酒井忠邦、版籍奉還を申し出。
1873年(明治6年)	姫路城、存城が決定。
1910年(明治43年)	明治の大修理始まる。(～1911年(明治44年))
1951年(昭和26年)	姫路城天守など8棟、国宝に指定。
1956年(昭和31年)	大天守等の解体修理(昭和の大修理)始まる。(～1964年(昭和39年))
1993年(平成5年)	日本初の世界文化遺産に登録。
2009年(平成21年)	大天守の保存修理工事始まる。(平成の修理)(～2015年(平成27年))
2015年3月(平成27年)	姫路城グランドオープン

昭和の大修理

天空の白鷺
(平成の修理)

◆姫路城データ

国宝	大天守、西・乾・東小天守、イ・ロ・ハ・ニの渡櫓の8棟
重要文化財	櫓・渡櫓27棟、門15棟、土塀32棟の計74棟
形式	平山城
敷地	内曲輪(うちくるわ)内は23ha 外曲輪(そとくるわ)内は233ha
大天守の高さ	海抜91.9m (姫山45.6m、石垣14.8m、建物31.5m)
大天守の構造	5重7階 「重」は、外観の屋根の数
世界遺産登録	平成5年

城内の見どころ

美しさ

白漆喰の城壁と大天守。三つの小天守が、お互いを引き立て合うように重なり合い、千鳥破風や唐破風などの装飾が華やかさを演出しています。壮大なスケール感と繊細さを合わせ持つその景観をご覧ください。

連立式天守

大天守を守るように東、西、乾(いぬい)の三つの小天守が渡櫓で結ばれて連立している、「連立式天守」が完全な形で残っています。

菱の門

城内で最も大きい門。両柱の上の冠木(かぶき)に木彫りの菱の紋があることからこの名前が付けられました。
火灯窓(かとうまど)など安土桃山時代の優雅な雰囲気を残した意匠が特徴です。

白漆喰総塗籠(しろしっくいそうぬりごめ)

漆喰(消石灰に糊を混ぜた壁塗りの材料)で木地が見えないように覆い塗る手法。火災に備えるとともに、築城の頃に普及していた火縄銃の射撃によって延焼しないように採用されました。

強さ

姫路城には、戦いへの備えを意識した仕掛けが多く見られます。
城内はまるで迷路のように入り組んだつくりになっており、なかなか大軍では侵攻することができません。またさまざまな防御設備が施されています。攻め手の気持ちになって見学すると、守りの城としての実用性の高さを感じていただけます。

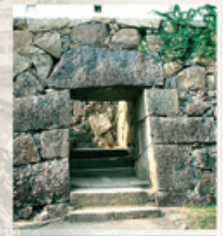
狭間(さま)

○△は鉄砲、□(長方形)は矢で狙うための形状となっている。

櫓や土塀などの壁面に開けられた穴で、長方形で弓を射る矢狭間と円形や三角形などの鉄砲狭間があります。防御設備である狭間が整然と配置され美しい景観をつくりだしています。姫路城には約1,000か所の狭間が残っています。

城内道

門



るの門

城内道は迷路のようになっており、枝分かれする道や鉄扉のついた頑丈な門、人一人がやっと通れるような抜け穴のような門など、敵を容易に大天守へ到達させない様々な工夫があります。

石落とし

石垣を登ってくる敵に石を落としたり、鉄砲を撃ったりできる仕掛け。天守閣のほか、塀や櫓にも多数施されています。

扇の勾配

上にいくほど反り上がるような形状の石垣になっており、開いた扇の曲線に似ていることからこの名がつきました。
敵を容易によじ登らせないための工夫だといわれています。